

4. 植生影響調査(高山植生) (V10)

知床半島の高山植生を大きく4つの地区に分け、各地区5年間隔でモニタリングしている。2025年度は知床沼地区における調査を実施し、経年変化の傾向を把握した。

4.1 調査方法

(1) 高山植生(知床沼周辺(上の沼、下の沼、イワイチョウ湿原))

- ・過年度に設定された帯状区(幅1m; 距離は地点による)において、出現種とその植被率等を記録した。

(2) 亜高山植生(ポロモイ台地縁)

- ・過年度に設定された方形区(5m×5m)において、高さ2m未満の出現種の植被率等について記録した。

(3) 森林植生(知床岳中腹青沼周辺)

- ・過年度に設定された帯状区(100m×4m)において、毎木調査を実施した。また、帯状区上に20mおきに設定された方形区(5m×5m)の方形区において、下枝(地上2m以下)、稚樹(樹高2m未満)、林床植生(出現種の植被率等)、希少植物等について記録した。

4.2 調査地

	調査区	標高	規模	備考
高山	SN1	920m	24m×1m	佐藤ら(1980)のサイト
	SN2	920m	24m×1m	知床沼キャンプサイト
	SN4	900m	17.8m×1m	知床沼手前の湿原
亜高山	SB-22	800m	10m×5m	佐藤ら(1980)のサイト
森林	R12-H1(SN3)	400m	100m×4m	大崩れ付近

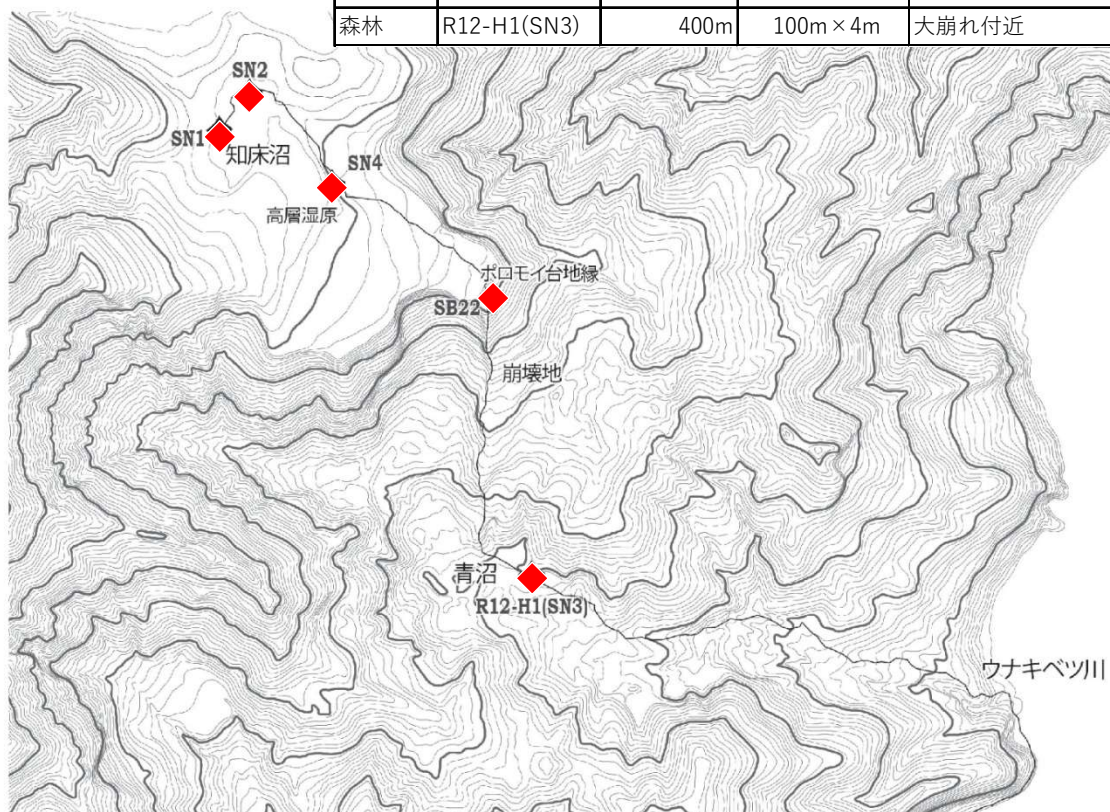


図4-1 植生影響調査地位置図(高山植生)

4.3 調査結果

(1) 高山植生(知床沼周辺)

表 4-1 知床沼地区高山植生における調査結果概要

調査地点	結果概要
SN1 (知床沼 上の沼)	・チングルマとミカヅキグサが優占。 ・平均植被率は2020年以降減少傾向。 ・ミカヅキグサは増加するものの、チングルマやミネハリイの減少が影響。
SN2 (知床沼 下の沼)	・チングルマ、チシマワレモコウ、ミネハリイが優占。 ・平均植被率は2020年に微減。 ・ヒメスゲとチシマワレモコウの減少が影響。
SN4 (伊予ヨウ湿原)	・ワタスゲ、チシマザサ、イワイチョウが優占。 ・平均植被率は微減傾向。 チングルマの減少が影響。

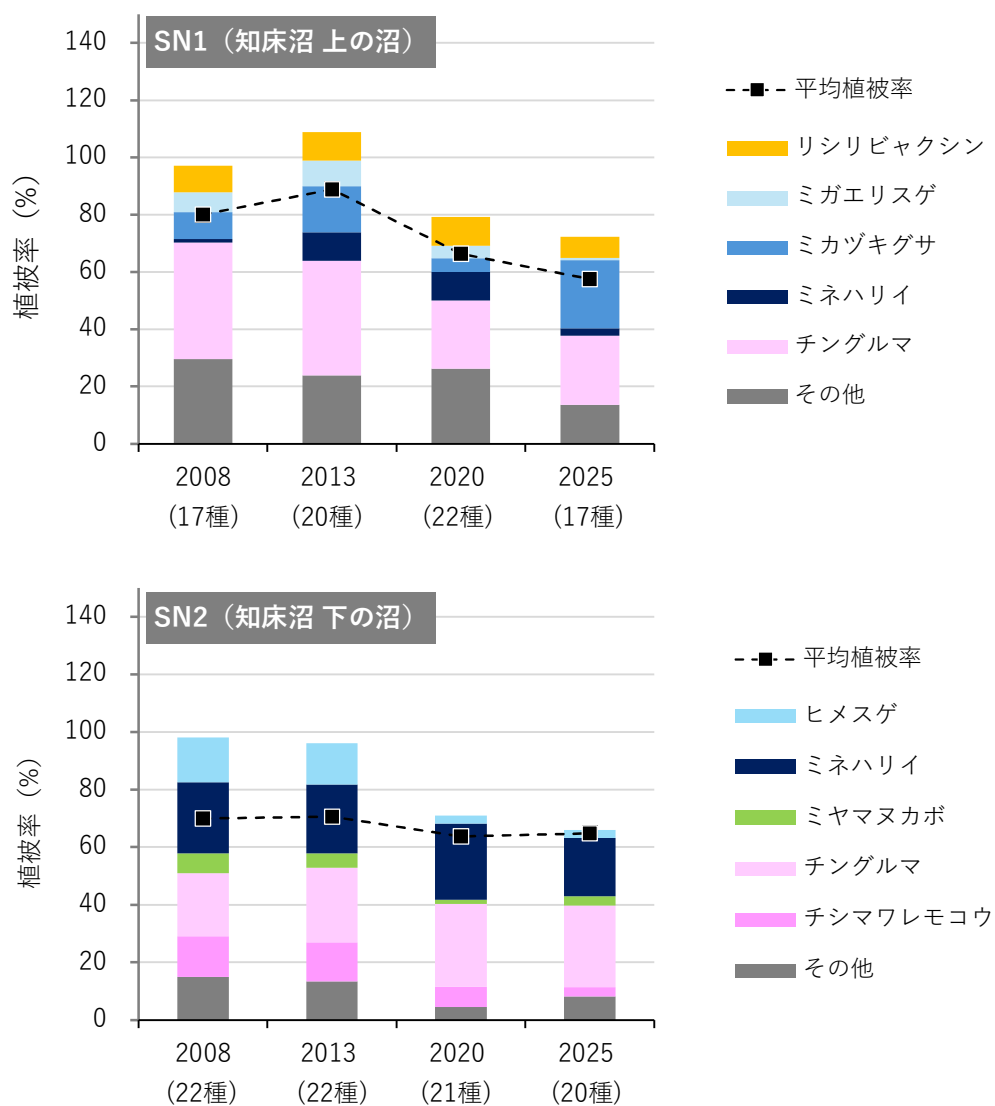
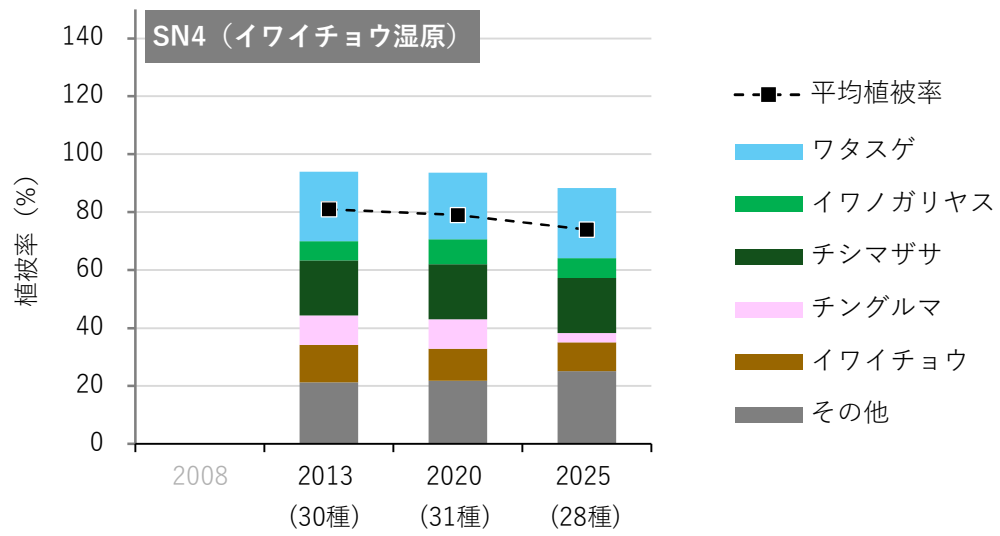


図 4-2 知床沼地区高山植生における植被率の経年推移 (1/2)

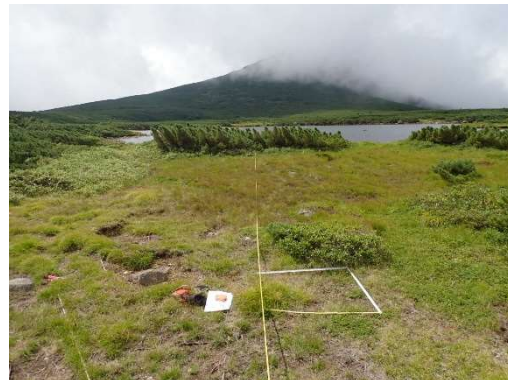


※2008年は調査未実施

図 4-2 知床沼地区高山植生における植被率の経年推移 (2/2)



SN1



SN2



SN4